

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0770200707		
法人名	特定非営利活動法人こころのさと		
事業所名	グループホームこころのさと		
所在地	福島県会津若松市石堂町6番30号 (電話) 0242-37-1331		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H21.2.4	評価確定日	H21.3.23

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤16人, 非常勤3人,	常勤換算17.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	5 名	要介護2	8 名			
要介護3	2 名	要介護4	3 名			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	85.2 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	七日町クリニック・シンドウ歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から少し入った田園の中、住宅が立ち並ぶ静かな一角に日当たりの良い2階建てのホームがある。職員は、利用者に理念である「第二の家族」と思ってもらえるよう、利用者の喜怒哀楽の感情表出を促し、思いを受け止め、自由な行動を見守るなどさりげないケアを心がけている。さらに利用者の言動の背景にある思いを尊重しながら、良い関係づくりに努めている。職員は段階に応じて研修に参加しており、レベルアップを図っている。また今後はサービス向上の推進に重点をおき、今までのケアに対しての振り返りを行い、さらなる取り組みを検討しながら実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	夜間想定避難訓練の必要性は理解しているが、具体的な訓練方法等を検討中のため、実施には至っていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はすべての職員に自己評価の意義、内容を説明し、自己評価を記入してもらい、それをひとつにまとめ上げた。すべての職員が取り組んだことで振り返りの機会となった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議は、定期的開催され、利用者の状況、活動報告を行っている。ホームの課題等を議題として、メンバーから意見をもらったり、協力をお願いするなど、サービス向上につなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者家族が他県に在住している方が多いため、日常的に意見、苦情等を聞くことが難しいので、3~4ヶ月に1回すべての家族へ電話や可能な方は面会を依頼して意見を聞くようにしている。寄せられた意見は、事業所全体、もしくは各ユニットで検討し、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事などに参加する機会はまだまだ少ないが、近所の人を訪ねてきたり、また事業所主催の敬老会の際は、利用者や家族、地域住民がバザーや模擬店等を一体となって楽しむ恒例行事となっており多くの人達が参加している。また、ボランティアを定期的に受け入れたり、他事業所の夏祭りに参加するなど積極的に地域との関係づくりに努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人一人の思いに寄り添い、第二の家族となれるような支援を心がけていきたいという職員の思いを理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で作った理念は、職員一人一人に浸透しており、理念に沿ったケアに努めている。また、日々の取り組みの中で理念を職員同士で確認し合ったりしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事などに参加する機会はまだ少ないが、近所の人を訪ねてきたり、また事業所主催の敬老会の際は、利用者や家族、地域住民がバザーや模擬店等を一体となって楽しむ恒例行事となっており多くの人達が参加している。また、ボランティアを定期的に受け入れたり、他事業所の夏祭りに参加するなど積極的に地域と関係づくりに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果に基づいて、改善検討会を開催しユニット全体で話し合いを行い改善に取り組んでいる。また、今回の自己評価は管理者から評価の意義について説明を受け、職員一人一人が自己評価を行い、それを管理者が一つにまとめ上げた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的で開催され、利用者の状況や活動報告を行っている。ホームの課題等を議題として、会議メンバーから意見をもらったり、協力をお願いするなど、サービス向上につなげている。</p>		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>広報誌やそれぞれの利用者の生活状況を写真入りでハガキを作成し、毎月家族に郵送している。また利用者個々の状況に応じて、電話等で家族に報告を行っている。家族が利用料金の支払いに訪れた際には金銭管理の確認をしてもらうと共に、利用者の暮らしぶりを伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の家族は他県在住者が多いため、すべての家族に3~4ヶ月に1回電話や可能な方は面会を依頼し、要望等意見を聞くようになっている。寄せられた意見は、全体もしくは各ユニットで検討し、運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットの職員は固定しており、離職する職員も少ないため、利用者との関係は馴染みやすい。また職員が代わる場合は引き継ぎを十分に行っている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は勉強会委員を中心に開催し、外部研修は職員の段階に応じて参加の機会を設けている。参加した職員は資料を作成し、業務終了後に報告会を行っている。報告会により全職員で共有を図り、ケアの向上に取り組むと同時に、職員のスキルアップにつながっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や方部の連絡協議会の研修会に参加している。他事業所の夏祭りに参加するなど、同業者との積極的な交流に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の今までの生活習慣を尊重しながらそっと寄り添い、会話する時間を大切にしている。また、日常の生活場面を通して利用者の喜怒哀楽を表出しやすい関係づくりを心がけ、本人の思いを共有、理解するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との日々の関わりの中で、何気ない言動や表情、また、家族からの情報も参考にしながら本人の意向を確認し、把握に努めている。認知症介護研究・研修東京センター方式を用いて一人ひとりの思いをくみ取り、職員間において情報を共有しケアに活用している。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、利用者や家族の意向をふまえ、検討会議において職員間で情報・意見交換を行い、利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は定期的な見直し以外にも、月一回の検討会議や日々の申し送り、連絡帳を活用してその都度職員間で意見交換を行っている。また、状態変化時や必要に応じて随時、見直しを行っている。</p>		
<p>3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)</p>	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診には職員が同行し、医師に対して利用者の状態を職員が適切に説明を行っている。また、必要に応じて家族にも同行してもらっている。受診結果はその都度、家族に報告を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、入居時や状況に応じて本人や家族と話し合い、意向の確認を行っている。また、職員間でも話し合い、方針の共有に努めている。状況の変化により意向も変化するので、現在その対策を検討中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの生活歴に配慮しながら、誇りを損なわない言葉かけや対応を行っている。広報誌等への掲載時は利用者、家族から同意をもらい、不要な個人情報はシュレッダーで処理するなど、取り扱いには十分注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその時の体調や気持ちなど、一人ひとりの状況に合わせて個別に対応している。また、散歩に行ったり喫煙したりする時は見守りながら、ゆったりとその人なりに過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた献立を考えたり、買い物や配膳、下膳など利用者のできる範囲で職員と一緒にに行っている。利用者の好みや食べやすい方法を考慮し、テーブルやコタツなど好きな場所で食事が楽しめるように工夫をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができ、時間帯や回数などを利用者の希望に応じて対応しており、ゆったりと入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者は食材の買い物、食事の準備、玄関の掃除、飼い猫の世話等できることを行うことが、利用者の喜びや張り合いにつながっている。また、手作りケーキでの誕生日会、花見、七夕、節分など毎月のイベントや縫い物、ちぎり絵での作品作りなど楽しい時間を過ごせるよう工夫している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天気の良い日は、近所の散歩に出かけている。利用者の出かけたという思いを尊重して、喫茶店や買い物、行きつけの理美容店など要望があれば出かける対応を心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることはなく、職員は利用者の行動パターンや状態を把握しており、見守りの中で自由に過ごせるよう配慮している。また、利用者の安全のため交番との協力体制もできている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行い、1回は消防署の指導を受け非常放送、連絡手段の確認、消火訓練を実施している。2階の避難経路として、外階段とスロープ、屋上が確保されている。夜間想定避難訓練や地域住民への協力依頼は行っていない。		夜間を想定した避難訓練を早期に実施してほしい。運営推進会議へ町内会長等の参加を得るとともに、地域住民の役割を決め避難訓練に参加してもらうなどして災害時の協力を働きかけてほしい。また、非常用の飲料水、食料などの準備をしてほしい。
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を把握し、献立の内容や利用者の体調に合わせて対応するなど配慮している。摂取量、水分量はチェック表を活用するとともに水分維持にジョア、ヤクルトなど取り入れ工夫している。口から食べることを一番に考え、食欲がでるような盛り付け、彩りを考慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広く南に面し、部屋全体が明るく暖かい。台所は居間と向かい合い、居室に続く廊下には利用者の姿が見え、会話しやすい造りとなっている。壁にはみんなで作ったちぎり絵や行事等の写真、季節の花が飾られ、利用者は飼っている猫と一緒に椅子やコタツで思い思いにくつろいでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の写真入りのネームプレートを居室入り口に飾り、自分の部屋がわかるように配慮してある。本人が使い慣れた品物や仏壇などを家族と一緒に相談しながら配置して、安心して過ごせる居室になっている。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム こころのさと

記入担当者名 鈴木 美和

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。